

あじけん通信

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

新年を彩る
ベトナム人実
習生による手
作り春巻き

2月に入り、暦の上では既に春を迎えました。ところが、先月下旬、アジ研は、例年にないほどの冷え込み（氷点下の日もありました！）で、信じられないくらい寒い日が続きました。ここ数日は、寒さも少し和らいできていますが、それでも東南アジアから来日したばかりの実習生の皆さんにとっては、まさに想像を絶する寒さなことでしょう。「そんな寒さにも負けず、元気一杯の実習生！」と言いたいところなのですが、さすがに、そうとは言い切れず、風邪で授業を早退・欠席したり、体調不良で医師の診察を受けた実習生が目立ちました。インフルエンザを含め日本の風邪のシーズンはもう暫く続きます。日本での技能実習生にとって、冬場の「体調の自己管理能力」は、必要不可欠。「うがい・てあらい」、「バランスの取れた食事」「十分な睡眠時間」が習慣として身に付くまで、今後も授業や寮生活を通して呼びかけ続けていきたいと思えます。

「新年好!」「Chúc mừng năm mới!」。2月6日（土）、あじけん恒例となった中国の「春節」・ベトナムの「テト」（今年は2月8日）を祝う会が行なわれました。今年は、なんと7ヶ国総勢 278名の実習生の皆さんが参加しました。パーティーの料理もこれまでの定番、中国餃子に加え、ベトナム人実習生による手作り揚げ春巻きが加わりました。また、今年は、日本式の新年の祝い方も皆さんにも体験してもらおうと、小山市駅南町自治会のご協力を得て、餅つき体験も実施。今まで以上に、国際色豊かな会となりました。また、今年も実習生の皆さんの歌や楽器演奏、豪華賞品が当たるお年玉抽選会と、出身国の異なる実習生の皆さんが、心を一つにして、2016年の旧暦新年を楽しく祝うことが出来ました。



歌を披露するベトナム人実習生の皆さん



ベトナムの横笛 cay sao(カイサオ)の演奏

今週の実習生

今月の実習生は、先日行なわれた旧正月を祝う会のお年玉抽選会で、見事に特賞のデジタルカメラをゲットしたベトナム人の TRUONG THI THU HA さん（ハーさん）を紹介します。

わたしは、デジタルカメラがいちばんほしかったので、わたしが、デジタルカメラをもらえて、ほんとうにうれしいです。このカメラで、にほんのきれいなけしきと、ともだちのしゃしんをたくさんとりたいです。



あじけん流日本語授業



絵カードを用いた基本動詞の導入



五十音カルタを用いたゲーム形式でのひらがな定着練習

今回は、現在、インドネシア人実習生 10 名とマレーシア人実習生 5 名を対象に行なわれている「日本語 200 時間講習」の様子をレポートします。これまで本校が、主に実践してきた「日本語 100 時間講習」カリキュラムは、実習生の皆さんが、技能実習に最低限必要な事前講習期間の半分の期間（通常は最低 1 ヶ月間）の講習を、来日前に母国にて修了してきていることを前提に組まれています。今回ご紹介する「200 時間カリキュラム」は、来日前の日本語事前学習期間が無い状態で来日した実習生の皆さんを対象として立てられたカリキュラムです。そのため、この 200 時間カリキュラムでは、平仮名や片仮名の書き取り、挨拶、数字や曜日など日本語の基礎基本から時間を掛けて丁寧に指導をしていくことになります。殆ど日本語が分からない状態の学習者ですが、「限られた講習期間内に、日本語を聞いたり、話したりすることに少しでも慣れてもらいたい」との考えから、このカリキュラムも、原則、直接法（学習者の母語に頼らず、日本語で日本語を教える指導法）で授業を進めています。絵カードやジェスチャーを駆使しての授業実践となり、講師陣も悪戦苦闘していますが、特にカリキュラム前半の 100 時間は、「よくわかる授業」＝「たのしい授業」の実践を心がけ、日本語学習に対して「前向きに取り組む気持ち」の育成と、基礎基本の着実な定着を目指して、カリキュラムを進めているところで

※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます